



今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004

今井地区文化講演会開催される

2月23日(金) 2人の講師をお招きして、一部構成により開催され、東館の大会議室一杯の皆さんが熱心に聴講されました。

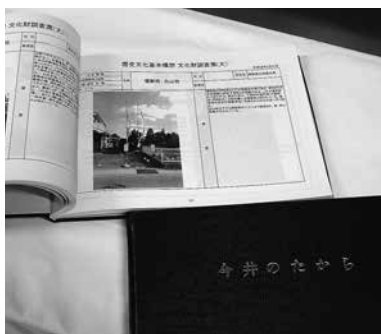
第一部は、「今井の文化財あれこれ」と題して、今井地区文化財委員長・今井ふるさと歌留多の会長、原勝美氏のお話を伺いました。また、今井ふるさと歌留多の会により作成された一題の紙芝居が披露されました。

原さんのお話によると、松本市歴史文化基本構想を受け発足した「今井地区文化財調査実行委員会」において調査研究が行われ、平成28年3月に調査報告書が完成し、市に提出されました。

今井地区においては、今までに様々な調査研究がされてきました。「武居文書」、石碑、建造物、遺構や諸々の古文書などを元に「今井史談会」「今井の文化を学ぶ会」など先輩の方々が調査・研究し、整理保存されてきた多くの文化、歴史、伝承事項、研究論文等の貴重な財産が脈々と受け継

がれてきました。

市への報告書をもとに、今回製本された「今井のたから」は、大分類・中分類・小分類として数百項目に及ぶ事例が体系化されています。更に個別調査票には現地調査による写真、絵図がわかりやすく説明されています。



今井のたから

また、調査の過程において、小学校の古い金庫の中から折口信夫直筆の貴重な掛け軸が発見され、また、公民館の古い金庫の中からは旧若沢寺から譲り受けた庫裡のふすま

絵が発見されたこともありました。また、中村町会の塩原家の「仁王塚」を、市教育委員会文化財担当者とともに調査しました。江戸時代前期に建立され、「仁王般若経碑」を含め、これを囲む様に配置された線刻の仏像や三重の塔、石碑などの遺構は、松本地方では存在が確認されていない大変貴重な価値がある」とされています。これらの貴重な資料を広く紹介し、後世に残すための取り組みとして「今井ふるさと歌留多」「今井ふるさと紙芝居」を地区内女性の皆さんに、素晴らしい絵を描いて頂いて、今までに7シリーズ作成しました。是非ご覧頂きたいと思えます。

現在に生きる私たちは中継者としてこれらの貴重な資料・財産を後世に伝えなければなりません。今井地区文化財委員会は地区内の文化財紹介の立て看板の立て替えも順次実施しています。

講演を終えられ原委員長さんからは、「地区の皆様へ活動をお伝えできて良かったです。おかげさまで後日『仁王塚を訪ねました』と声をかけていただきました。委員会には若手委員も在籍し、今後の活動が楽しみです。また地

区の皆さまから文化財の新たな資料や情報など、お寄せいただけたいです。」と笑顔でお話しされました。



原委員長と紙芝居発表 (中村美智子さん)

人権特別講演
「歴史は、先人のことを考えて受け継ぎ、残していくことが大切」

第二部は、松本市文書館特別専門員の小松芳郎氏を講師として行われました。演題は「先人に学ぶ自由民権運動とその時代」です。

「松本は全国で最初に自由民権運動が始まったところ」といわれています。

大阪での民権運動家の大会に参加した人の中から、松沢求策、市川量造、上條燈司、浅井列らにより松本で政治結社「奨匡社」が明治13年に設立されました。

彼らは、国会開設請願運動に奔走する一方で、子どもたちへの教育や学校運営にも力を注ぎました。その教え子の中には後に新聞記者として活躍する木下尚江らがいます。

自由民権運動は、明治14年の「国会開設の詔」を勝ち取りますが、貧しい農民は救われず秩父事件などの農民の反乱が各地で起こります。皮肉なことに、この時期、市川量造は郡司として、これら農民の反乱を抑える側にまわっているのです。

小松先生が質問に答えた、「一方の面だけでなく、見方を変えるとまた違った歴史が見えてくる」という言葉は、とても意味が深く、歴史の勉強の仕方を示していると思いました。



小松芳郎氏の講演

中村定史氏講演会 『野球から学んだもの、 伝えたいこと』

2月24日(土)、今井公民館東館にて、松本工業高校硬式野球部・中村前監督(朝日村出身)による講演会が開催され、自身の選手時代の思い出話から始まり、松工監督時代の経験談など野球への思いを熱く語られました。

会場には約120名の地区住民や小中学生野球チームの子ども、指導者らが集まり、貴重なお話に耳を傾けました。



中村前監督の話を子どもたちは真剣に聞いています

指導経験に基づくお話では、栄養バランスの取れた食事の大切さ、よく食べてよく運動するという体づくりの重要性について。また、高校から大学・社会人へと野球を続けられる人は少数であるとし、将来の選択肢を狭めないためにも野球以外のことや勉

強も一生懸命やることで周囲が応援してくれると話されました。

質疑応答では、少年野球指導者から、小学生に対しての指導方法を問われ、「金の卵」であるかもしれない子どもたちが野球を嫌いになってやめたりしないように、指導者は威圧的な態度を取らずに接してほしいと回答されていたのが印象的でした。

成年、耳の日に 日本聴導犬協会を 訪ねる



3月3日(土) 今井地区人権啓発推進協議会による人権学習視察研修に、17人

が参加しました。

宮田村の日本聴導犬協会を訪ね、会長さんのお話をお聞きしました。

協会では、全国各地から捨てられたり飼い主の見つからない保護犬を介助犬として訓練したり、訓練士の育成、障がい者のニーズにそった補助犬カウンセラーの養成等を行っています。次に介助犬のデモを見学しました。ベルの音、ドアノックの音を主人にタッチして知らせる、落とし



落とし物として持ち渡す聴導犬

た物を拾う、体温調節の為靴下を脱がせる等、訓練士の指示に犬は仕事をしたくて褒められたくて、頑張る姿が微笑ましかったです。

最後に訓練前の保護犬とふり、良い研修会でした。

つがやま No.270 「すびぞ スケート!」 藤牧 元(野口)

今年には平昌冬季オリンピックがありました。日本勢の、そして長野県ゆかりの小平選手たちの活躍ぶりに、心を動かされた方は数多くいらっしゃったかと思えます。

以前、スピードスケートは、今井の地で大変なじみのあるスポーツでした。小学校の校庭で



は子どもたちが、授業のみならず朝晩もスケートを楽しみ、夜中には保護者の方々が手入れをしてくださっていたことを思い出します。

現在、校庭に氷を張ることはできなくなりましたが(中庭で行っています)、今井スケートクラブとしてスケートの文化が残っています。また、

今井からオリンピックに出場した選手が輩出されたことは、記憶に新しいですね。今井にはこのような歴史があり、そして今も継続されています。今井の人々がスケートにより親しみを持ち、スケートをする子どもが増え、再びこの地から世界の舞台で活躍する選手を応援したいのです。興味のある方は、大人も子ども、ジジババも、この春から参加されてみてはいかがでしょうか。

北風南風 昨年、主人の会社で退職金、年金の使い道についてセミナーがあり、夫婦で伊豆の保養所まで久々のお出掛けをしてきました。これからは人生100歳という事で長期計画をたてました。年金をもらうようになって、例えば一生に一度はオーロラを見てみたいというような夢も盛り込んで計画表を作成してきました▼我家は親の介護は終わってしまいましたが、子どもたちの教育ローン返済や、結婚。それにとまなう、家の改築とかが可能性として考えられます。なので今回のセミナーは、これからの私たち夫婦の人生において、とても参考になるものでした▼最近、膝がとか、腰がとか気になる私ですが、大事なものは健康寿命です。なんと云っても夫婦ともに元気で過ごせることがいちばんです。先日、改善センターで、高齢化にともなう健康講座がありました。が、あまり運動もできていない私です。これを機会に人生の設計だけでなく、自身や家族の健康も考えて、運動も含め、おだやかな老後を過ごすための準備をしていきたいと思えます。(T.O)